

施工計画書

作成例

工事番号

工事名

請負者

印

目 次

1 工事概要	2
2 計画工程表	3
3 現場組織表	4
4 使用機械	5
5 主要資材	6
6 施工方法	7
7 施工管理計画	13
8 安全管理	17
9 緊急時の体制及び対応	19
10 交通管理	20
11 環境対策	21
12 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	21
13 その他	22
資材等仮置場位置図	23
建設副産物運搬経路図	24
真砂土運搬経路図	24
安全施設配置図	25

1 工事概要

- (1) 工事名称 市道笠岡〇〇号線配水管布設替工事
- (2) 工事場所 笠岡市笠岡地内
- (3) 工 期 平成26年7月1日～平成27年3月31日
- (4) 請負金額 一金 2,560,000円
- (5) 発注者 笠岡市上下水道部水道課
- (6) 請負者 笠岡水道設備株式会社
- (7) 工事内容

管布設工

管布設土工

1式

NSDIP布設工 $\phi 300$ L=300.00m

NSDIP布設工 $\phi 150$ L=100.00m

配水管切替工 $\phi 150$ 3ヶ所

配水管切替工 $\phi 100$ 2ヶ所

給水管切替工 $\phi 40$ 2ヶ所

給水管切替工 $\phi 25$ 10ヶ所

給水管切替工 $\phi 20$ 25ヶ所

路面復旧工

350m²

弁類設置工

ソフトシール仕切弁 $\phi 300$ 2 基

ソフトシール仕切弁 $\phi 150$ 1 基

ソフトシール仕切弁 $\phi 100$ 2 基

消火栓取付工（単口） $\phi 75$ 1 基

仮設工

1式

2 計画工程表

工 種	種 別	数量	腰数	7	8	9													
準備工		1 式	1 5																
舗装切断工	t = 5 cm	4 0 0 ^m	2																
Aルート 布設工	φ 3 0 0	3 0 0 ^m	1 0																
Bルート 布設工	φ 1 5 0	1 0 0 ^m	4																
配水管切替工	φ 100 ~ φ 150	ヶ所 5	4																
給水管 切替工	φ 20 ~ φ 40	ヶ所 3 7	1 0																
舗装復旧工	t = 5 cm	3 5 0 ^m	3																
後片付け・ 完成図書作成		1 式	1 0																
検査準備		1 式	6																

3 現場組織表

現場代理人 ○ ○ ○ ○ ○○○-○○○○-○○○○	主任技術者 ○ ○ ○ ○ ○○○-○○○○-○○○○	配管接合	○ ○ ○ ○
		工程管理	○ ○ ○ ○
		出来形管理	○ ○ ○ ○
		品質管理	○ ○ ○ ○
		写真管理	○ ○ ○ ○
		建設副産物管理	○ ○ ○ ○
		機械器具管理	○ ○ ○ ○
		重機管理	○ ○ ○ ○
		労務安全管理	○ ○ ○ ○
		交通安全管理	○ ○ ○ ○
		安全巡視	○ ○ ○ ○
		事務	○ ○ ○ ○

名 称	氏 名	資 格	摘 要
現場代理人	○ ○ ○ ○		
主任技術者	○ ○ ○ ○	1級土木施工管理技士	
配水管技能者	○ ○ ○ ○	配水管技能者	第1234 - 56 - 00777号
〃	○ ○ ○ ○	配水管技士	001234
	○ ○ ○ ○	玉掛け技能講習修了	第12777号
	○ ○ ○ ○	玉掛け技能講習修了	第23456号
	○ ○ ○ ○	移動式クレーン運転士	第12754号
	○ ○ ○ ○	小型移動式クレーン運転技能講習修了	第13928号
	○ ○ ○ ○	車両系建設機械技能講習修了	第35981号
	○ ○ ○ ○	交通誘導警備1級	笠岡警備 (株)

下請業者

舗装切断	(株) ダイキン
舗装工	(株) 笠岡道路
産業廃棄物収集運搬	(株) 笠岡組
交通誘導警備	笠岡警備 (株)

4 使用機械

機 械 名	規 格	台数	使用工種	備 考
バックホウ (排出ガス対策型)	クローラ型 山積0.45m ³	1	管布設土工	
〃	クローラ型 山積0.13m ³	1		
〃	クローラ型 山積0.28m ³	1		
タンパ	60～100 k g	1		
ダンプトラック	1 0 t	1		
〃	4 t	1		
〃	2 t	3		
クレーン付トラック	4 t 積・2. 9 t 吊	1	管布設工	
エンジンカッター	K950アクティブⅡ	2		
パイプ切削切断機	N450型油圧	1		
NS グルーバー		1		
バックホウ (排出ガス対策型)	クローラ型 山積0.80m ³	1	路面復旧工	
〃	クローラ型 山積0.13m ³	1		
ダンプトラック	1 0 t	1		
〃	2 t	2		
コンクリートカッター	走行式	1		
振動ローラ	ハンドガイド式 0.5～0.6 t	1		
振動コンパクタ	50～60 k g	1		
水中ポンプ	揚程 5 m	3	仮設工	
発動発電機	3 k V A	2		

5 主要資材

品 名	規 格	予定数量	購入先	品質証明	備 考
ダクタイル鋳鉄管	φ 3 0 0	1 式	(株) 笠岡管材	笠岡市承認品	
〃	φ 1 5 0	1 式	〃	〃	
耐衝撃性硬質塩化ビニル管	φ 2 0 ～ 4 0	1 式	〃	〃	
ソフトシール仕切弁	φ 1 0 0 ～ 3 0 0	8 基	〃	〃	
地下式消火栓	単口	2 基	〃	〃	
改良土		2 0 m ³	(株) 笠岡組	試験成績表	
山土		8 0 m ³	笠岡建材 (有)	試験成績表	
水硬性粒調スラグ	HMS 2 5	2 2 m ³	(株) 笠岡興業	試験成績表	
再生密粒度アスコン	1 3	2 5 t	(株) 笠岡道路	配合承認書	
再生密粒度アスコン	2 0	4 0 t	(株) 笠岡道路	配合承認書	

6 施工方法

1 準備工

① 現地調査

- ① 設計図に基づき現場測量を行い、既設管路・新設管路の位置、他の地下埋設物件の状況を確認し、管理ポイントに鉋を打つ。

また、周辺の道路、近接家屋等の作業環境について調査をする。

② 地元調整

- ② 地元行政協力委員・町内会長等に工事説明と協力の依頼を行い、工事の影響範囲内の住民に工事のお知らせ案内文配布する。

③ 関係機関・所轄警察署との協議

- ③ 所轄警察署と打合せを行い、道路使用の申請を行う。
また、他の占有者に連絡をとり、打合せを行う。

④ 看板等設置

- ④ 設置場所・方法に注意して設置する。

2 土工

舗装工

- ① 交通・保安施設・土留・排水・覆工その他の必要な準備を整えたうえ、着手する。

① 掘削
BH0.13m3

架空線及び地下埋設物等を確認し、必要に応じ立会いを求め、防護策を講じる。

設計図書に示されている幅及び深さに掘削し、継手部分は接合作業がスムーズに行える幅及び深さにする。

② 発生土処理
DT 2 t

湧水がある場合は排水設備を備える。

③ 残土処理
DT 10 t

また、排水先を随時確認し、土砂等が排水先に流出しないように沈砂ますを設け、作業終了後確認し、土砂等を清掃する。



②③ 仮置場の位置は別紙のとおり。

仮置場においての流用土の管理を適切に行い、土質を損ねないようにする。

また、運搬路及び仮置場での騒音・振動・塵埃の防止に努める。

④ 人力により凹凸の無いように丁寧に仕上げ、床付け面に岩石等が出た場合は、床付け面より10cm以上取り除き、良質な土に置き換える。

⑤ 管及びその他の埋設物等に損傷を与えたり、管を移動させたりしないように施工する。

また、管の下・側部に埋戻し材が行きわたらないような部分は、特に入念につき固める。

管保護材は碎砂を用い、埋戻し材は既存発生土及び改良土を用い、一層仕上がり厚さが20cmとなるように敷き均し、タンパ(60~100kg)にて締め固め、現地盤と同程度の締め固め密度が得られるように施工する。

⑥ $\phi 300$ mm布設箇所は埋戻し1層目施工完了後、その他の箇所には管保護材施工完了後に埋設標識シートを敷設する。

3 管布設工

一日の作業完了後は、管内に土砂・汚水などが流入しないよう铸铁管キャップ等を用いて管端部を塞ぎ埋戻しをする。

工程①～④は配水管技士等の指揮の下に施工する。

① 管運搬・据付
クレーン付トラック
4 t 積・2.9 t 吊

① 管運搬時には、歯止め等により荷崩れがないようにする。

管の吊上げ、吊降ろしは有資格者の指揮の下で行う。

吊具は常に点検を行い、管を傷つけないようにナイロンスリングを使用する。

管の据付をする前には、十分管体検査を行い、亀裂・欠陥等や、周辺の安全を確認したうえ、管に衝撃を与えないように注意して吊降ろす。

また、管の吊降ろしに当たり、土留め切梁を一時的に取り外す必要がある場合は、必ず適切な補強を施し安全を確認のうえ施工する。

管の据付けに当たっては、管内部を十分に清掃し、水平器、水糸等を使用し中心線及び高低を確認し、管径・年号を上にして据付ける。

② 管接合

② NS形、T形、K形継手の接合は、日本ダクタイル鉄管協会の接合要領書に基づき、チェックシートに記入しながら施工する。

③ 管切断
エンジンカッター
K950 アクティブⅡ
パイプ切削切断機
N450型油圧
NS グルーバー

接合器具はNS形はレバーホイスト、T形はタイジャッキを使用する。

④ 挿し口加工

⑤ ポリエチレン
スリーブ被覆

- ③ 切断機器は、 $\phi 100\text{ mm}$ 、 $\phi 150\text{ mm}$ で挿し口加工をしない場合は、エンジンカッター（ダイヤモンドブレード），挿し口加工をする場合は、NS グルーバーを使用し、 $\phi 300\text{ mm}$ は、パイプ切削切断機を使用する。

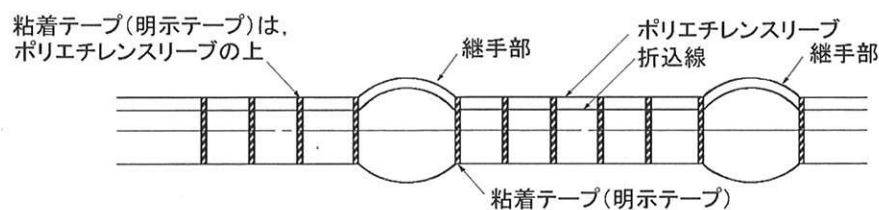
切り口端面は、内側の面取りを行い、専用の補修塗料で塗装し、所定の位置に白線を表示する。

- ④ タッピンネジタイプの挿し口リングを使用し、日本ダクトイル鉄管協会の接合要領書に基づき施工する。

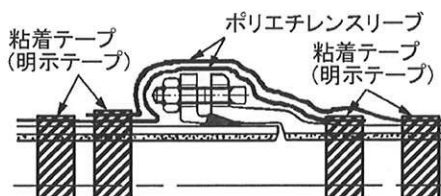
- ⑤ スリーブを管の外面に密着させ、余分なスリーブは管頂部で重ね、継手部は凹凸にスリーブがなじむように十分なたるみを持たせ、無理なく密着させる。

スリーブの固定は明示テープにより、下図のように施工する。

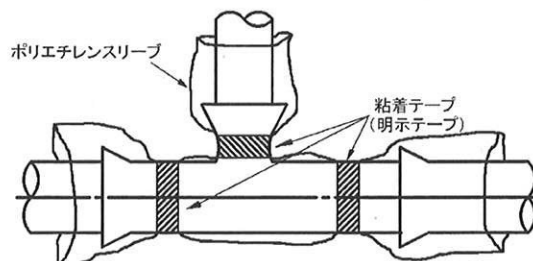
直管部



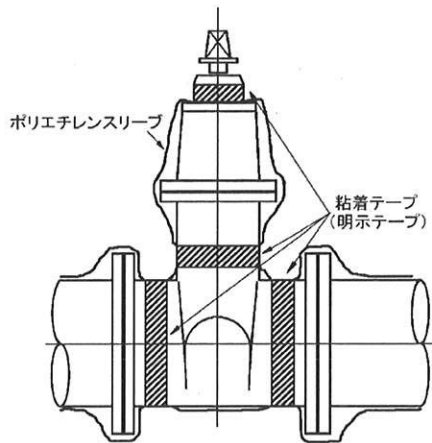
継手部



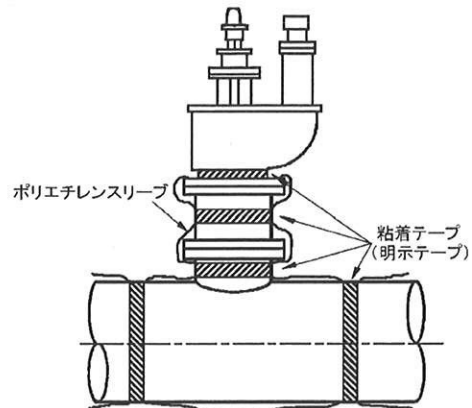
分岐部



仕切弁部

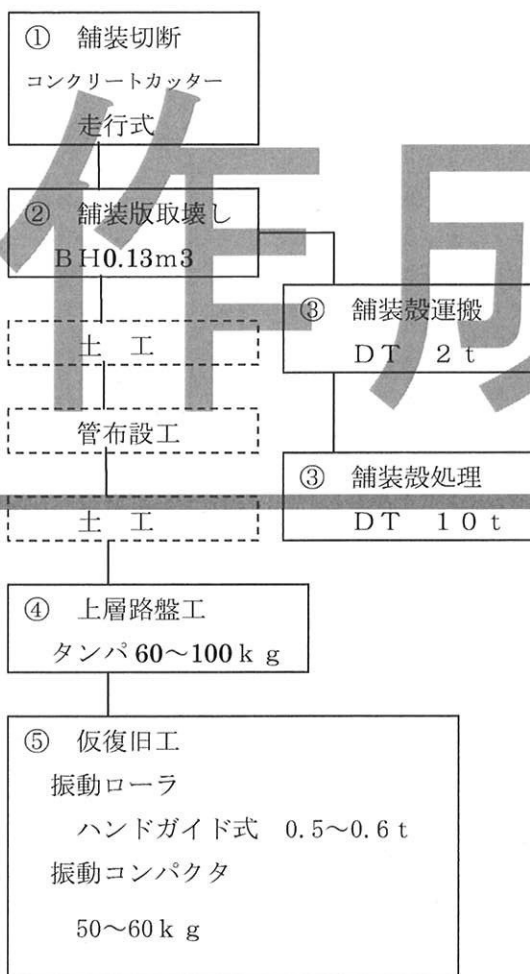


消火栓部



4 舗装工

(仮復旧工まで)



① コンクリートカッターはバキューム式を使用し、冷却水を周辺水路等へ流出しないよう施工する。

② 交通・保安施設その他の必要な準備を整えたうえ、着手する。

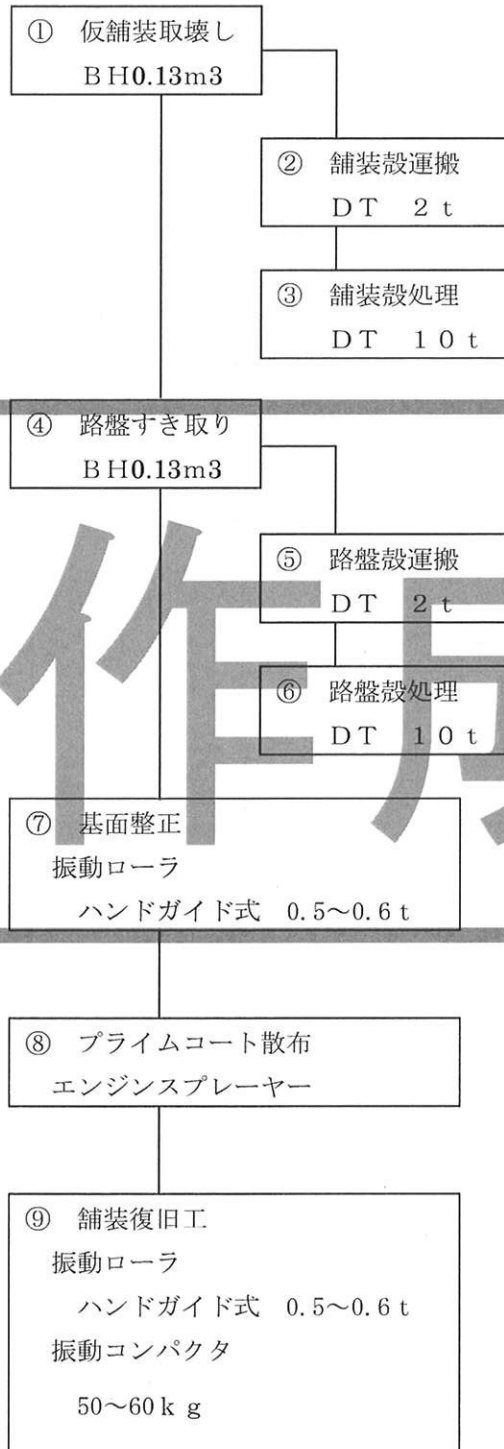
鉋滓路盤は、埋戻しに流用できるように20cm程度の大きさに破碎する。

③ 運搬路及び仮置場での騒音・振動・塵埃の防止に努める。

④ 所定の密度が得られるように、十分締め固める。

⑤ 仮復旧は、その日に舗装取壊をした箇所について必ず施工し、既存路面との段差等がないようにした後、工事施工区間を開放する。

(本復旧工)



① 交通・保安施設その他の必要な準備を整えたうえ、着手する。

②③⑤⑥ 運搬路及び仮置場での騒音・振動・塵埃の防止に努める。

④ すき取りすぎに注意しながら施工する。

⑦ 表面が平坦になるようにし、施工後、路盤厚（10cm）及び路面からの下がり（5cm）を確認する。

⑧ 縁石等の構造物や周辺の建物等を汚さないように注意をし、必要に応じてシート等により防護する。

散布量は1.26ℓ/m²とする。

⑨ プライムコートが安定するのを待って舗設を開始する。

敷き均し完了時の温度（110℃以上）を確認する。

転圧は基準密度（2.35t/m³）が得られるように十分締め固めを行い、振動ローラによる締め固めが難しい箇所は、振動コンパクタにて十分締め固めを行う。

7 施工管理計画

(1) 工程管理

バーチャート工程表を作成し管理する。

毎月初めに水道管理課へ提出する。

(2) 品質管理

工 種	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
管布設工	チェックシート	接合要領書による	接合要領書による	継手5箇所あたり1箇所	
不断水T字管	水圧試験	給水装置施工	給水装置施工	全箇所	
取付工		基準による	基準による		
アスファルト 舗装工	温度測定	温度計による	110℃ 以上 (初期締固め前)	随時	
〃	密度試験	舗装試験法便覧	基準密度の 94%以上	4箇所	

(3) 出来形管理・写真管理

工 種	測定項目	写真管理箇所	出来形管理箇所
着手前	全景	起点・各測点・終点	
安全管理	各工事看板（標示板） 設置状況	各設置箇所	
	保護柵設置状況	各設置箇所	
	交通誘導員設置状況	各配置箇所	
	安全活動状況	各種安全活動実施毎	
機械管理	定期・自主点検状況	各機械	
使用材料	保管状況	保管箇所ごと	
	品質確認（JIS・JWWAマーク）	各種材料	
舗装切断工	舗装切断状況・完了 冷却水処理状況・完了	AルートNo.3・5 BルートNo.3	

舗装版取壊し工	取壊し状況	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)	
	取壊し幅 既設舗装版厚	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び厚さ・種別変化箇所	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び厚さ・種別変化箇所
掘削工	掘削状況	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)	
	掘削幅・深さ	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び断面・土質変化箇所	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び断面・土質変化箇所
基面整正工	基面整正状況・完了	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)	
埋戻し工	敷均し状況・完了	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び弁栓 (5箇所) の各層	
	締固め状況・完了	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び弁栓 (5箇所) の各層の1・3・5回目	
	まきだし厚さ	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工及び弁栓 (5箇所) (8箇所) の各層	
	管保護材, 路床, 路盤厚さ	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び弁栓 (5箇所)	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所) 及び弁栓 (5箇所)
	埋設シート設置完了	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)	

仮舗装工	舗設状況	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)	
	仮舗装厚さ	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)	各測点, 各配水管切替工, 給水管切替工 (8箇所)
土留め工	矢板・支保工設置状況・完了	矢板工施工箇所	
	矢板幅・長さ・枚数	矢板工施工箇所	矢板工施工箇所
水替工	水替え状況	水替え施工箇所	
管布設工	配管状況・完了	各測点, 異形管部, 離	
	ポリエチレンスリーブ設置状況・完了	脱防止金具部	
	明示テープ設置完了		
	チェックゲージ確認状況	継手 5箇所あたり 1箇所	
	土被り	各測点, 土被り変化箇所, 既設管接続箇所	各測点, 土被り変化箇所, 既設管接続箇所
	埋設位置	各測点, 埋設位置変化箇所, 既設管接続箇所	各測点, 埋設位置変化箇所, 既設管接続箇所
給水管工	配管状況・完了	分水サドル部, 異形管部	
	ポリエチレンスリーブ設置状況・完了		
	明示テープ設置完了		
	不断水穿孔状況・完了	給水管切替 (8箇所) 給水管切替No. 5	
	密着コア挿入状況・完了	施工箇所	
	刃先管理	給水管切替 (8箇所)	
	水圧試験	給水管切替No. 5	
弁栓設置工	設置状況・完了	設置箇所	
	ポリエチレンスリーブ設置状況・完了		
	明示テープ設置完了		
	弁室設置状況・完了		

舗装工	仮舗装・路盤すき取り 状況	各測点	
	基面整正状況・完了	各測点	
	路盤厚さ 路面下り	各測点, 各配水管切替 工, 給水管切替工 (8 箇所)	各測点, 各配水管切替 工, 給水管切替工 (8 箇所)
	乳剤散布状況・完了	各測点, 各配水管切替 工, 給水管切替工 (8 箇所)	各測点, 各配水管切替 工, 給水管切替工 (8 箇所)
	舗設状況・完了	各測点	
	コア抜取り状況・完了	Aルート 3 箇所 Bルート 1 箇所	
	舗装厚さ	Aルート 3 箇所 Bルート 1 箇所	Aルート 3 箇所 Bルート 1 箇所
建設副産物処分工	仮置き状況	仮置き箇所	

(4) 品質証明 (社内検査)

ア 検査担当者 ○ ○ ○ ○

イ 検査実施事項

(ア) 作成した書類を提出する前に確認し、不備があれば直ちに手直しをする。

(イ) 竣工図の内容を確認し、不備があれば直ちに手直しをする。

また、配管、土被り等、現地にて確認できないものは写真により確認する。

(ウ) 竣工検査前の社内検査においては、施工延長、オフセット、弁室内等を確認

するとともに現場清掃、検査用具準備等の受検体制についても確認する。

8 安全管理

(1) 工事安全管理対策

ア 安全管理組織表

安全責任者	車両運行責任者	○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○	重機安全責任者	○ ○ ○ ○
	火元責任者	○ ○ ○ ○
	安全巡視員	○ ○ ○ ○

安全責任者〔(株) ダイキン〕	○ ○ ○ ○
〃 〔(株) 笠岡道路〕	○ ○ ○ ○
〃 〔(株) 笠岡組 〕	○ ○ ○ ○
〃 〔笠岡警備 (株) 〕	○ ○ ○ ○

イ 掘削作業の安全対策

(ア) 作業現場内は第三者立入禁止とし、ガードフェンス・バリケード等で仕切り、立入禁止看板で表示する。

(イ) 重機作業中は、作業半径内立入禁止とし、必要に応じ誘導員を配置し、作業車両及び作業員の安全を確保するとともに、作業の円滑化を図る。

(ウ) 作業機械設置場所が地山の崩壊危険箇所、地盤の不等沈下のおそれのある箇所であるときは、敷鉄板等で保護したうえ作業をする。

(エ) 危険箇所における作業は、必ず誘導員もしくは見張人をつける。

ウ その他安全対策

(ア) 重機等の運転、玉掛け等は必ず有資格者が行う。

(イ) 材料置場はバリケード等で囲み第三者の立入を禁止する。また、材料等を積み重ねる場合は歯止めをし、管材等が崩れないようにする。

(ウ) 路面平坦の確保と清掃は常に行い、交通に支障のないようにする。

(エ) 必要に応じて工事現場の夜間パトロールを行い、適切な措置を講ずるものとする。

(2) 第三者施設への安全管理対策

ア AルートNo. 2付近において、ブロック塀のすぐ横を掘削するため、重機の旋回等に十分注意をし、ブロック塀に影響が及ぶと思われた場合は、事前に適切な措置を講じて作業をする。

イ Aルートにおいて、NTTケーブル、電力管（中国電力）と近接する箇所があり、その付近を掘削する場合は、NTT及び中国電力職員の立会いの下、作業を実施する。

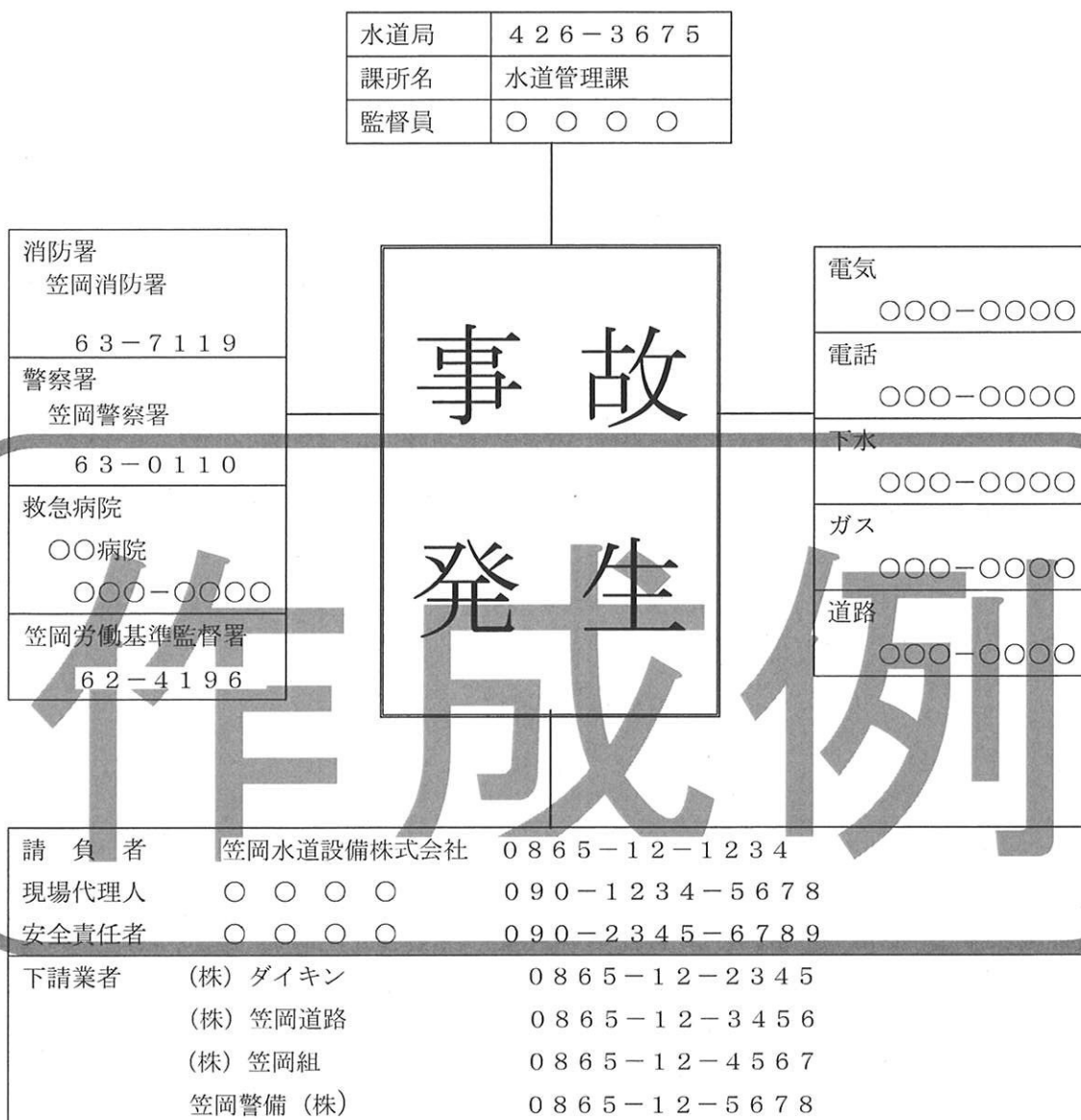
(3) 工事安全教育及び訓練についての活動計画

実施項目	場所	参加予定者	内容	頻度
朝礼	現場	現場作業従事者	当日の作業の手順の確認	毎日
KY活動	現場	現場作業従事者	当日の危険予知及び安全作業の確認	毎日
安全会議	事務所	現場作業従事者	その週の安全活動に対する反省	毎週
安全訓練	事務所	現場作業従事者	別紙予定表	毎月初め
安全巡視	現場	〇 〇 〇 〇	現場内及び周辺の監視、安全確認	毎日

安全訓練の予定計画表

日時	時間	内容
7月	8:30 ～12:00	①本工事の施工内容等の周知徹底及び予想される事故防止対策 ②災害時の緊急連絡体制等の確認及び予行演習
8月	13:00 ～17:00	①前月の反省 ②KY活動ビデオ上映
9月	8:30 ～12:00	①前月の反省 ②労働安全衛生法等の法令、指針の周知徹底

9 緊急時の体制及び対応



夜間・休日連絡先		
現場代理人	○ ○ ○ ○	0 8 6 5 - 2 3 - 6 7 8 9
安全責任者	○ ○ ○ ○	0 8 6 5 - 2 3 - 7 8 9 0
主任技術者	○ ○ ○ ○	0 8 6 5 - 2 3 - 8 9 0 1
会 社	○ ○ ○ ○	0 8 6 5 - 1 2 - 1 2 3 4

10 交通管理

(1) 運搬に対する安全対策

- ア 現場から各処分場までの運搬経路は別紙運搬経路図のとおりとする。
- イ 運搬経路の一部に道路幅員が狭く、住宅が密集している所があるため、住民に工事の概要、安全対策を説明し、十分に打合せを行う。
- ウ 運搬時間は、AM10:00～PM4:00までとする。
- エ 運転手に制限速度の厳守を徹底する。
- オ 一般車両及び通行者の運行については、安全の確保を最優先とするよう、交通誘導員及び運転手に徹底する。

(2) 車両出入口及び交差点の安全対策

- ア 作業区間の前後の交差点部分に交通誘導員をそれぞれ配置し、通行車両及び通行人の安全を確保する。また、作業区域からの機材の出入りは、保安要員または交通誘導員により行い、事故防止に努める。
- イ 資材等の仮置場出入口付近の見通しが悪いため、カーブミラーを設置する。

(3) 交通誘導員及び保安施設の配置計画

- ア 交通誘導員及び保安施設の配置は別紙のとおりとする。
- イ 交通誘導員には、笛、手旗を携帯させ一般車両及び歩行者の安全確保に努める。
- ウ 保安施設は、予備品を用意し、故障、破損したものは直ちに取替えるものとする。

(4) 運搬路の維持管理

- ア 運搬道路のパトロールを毎日行い、路面の汚損があった場合は、速やかに清掃する等、適切な対応をする。

(5) 車両運行に関する安全対策

- ア ○○車両運行責任者の責任のもと、車両への過積載防止を徹底するため、車両運転手及び重機運転手に、安全訓練、安全会議等で教育を実施し、現場にてチェックを行う。また、資材納入業者、下請業者にも周知徹底を図る。

イ ○○車両運行責任者の責任のもと、朝礼時に道路交通法の遵守、運転手の体調のチェックを行う。

1 1 環境対策

(1) 騒音・振動対策

工事の施工にあたっては、低騒音低振動型の機械を使用し、重機の空ぶかし、バケットのゆさぶり、ダンプトラックの急発進、急停車等をしないよう指導し、徹底させる。
また、待機時には重機・車両のエンジンを必ず止めるよう指導し、徹底させる。

(2) 水質汚濁防止対策

ア 舗装切断時は、バキューム式のコンクリートカッターを使用し、冷却水が水路等へ流出しないようにする。

イ 農業用水路等へ掘削内の湧水等を排出する場合は、沈砂ますを設け、土砂が流出しないようにする。

ウ 重機への給油及びグリース補給の際には、こぼれないように注意し、万一こぼれた場合にも水路等へ流出しないようにする。

(3) ゴミ・ほこり対策

ア タバコの吸殻、飲食物のゴミは所定の位置に捨て、一日の作業終了時には必ず持ち帰るよう指導し徹底させる。

イ 埋戻し材投入時、仮置場への土砂等の搬出・搬入時には、出来る限り塵埃が出ないようにし、必要に応じて散水等を実施する。また、仮置場に集積されている土砂等についても、散水等の対策を講じる。

1 2 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

(1) 建設副産物搬出経路

別紙運搬経路図のとおりとする。

(2) 建設副産物処分場名

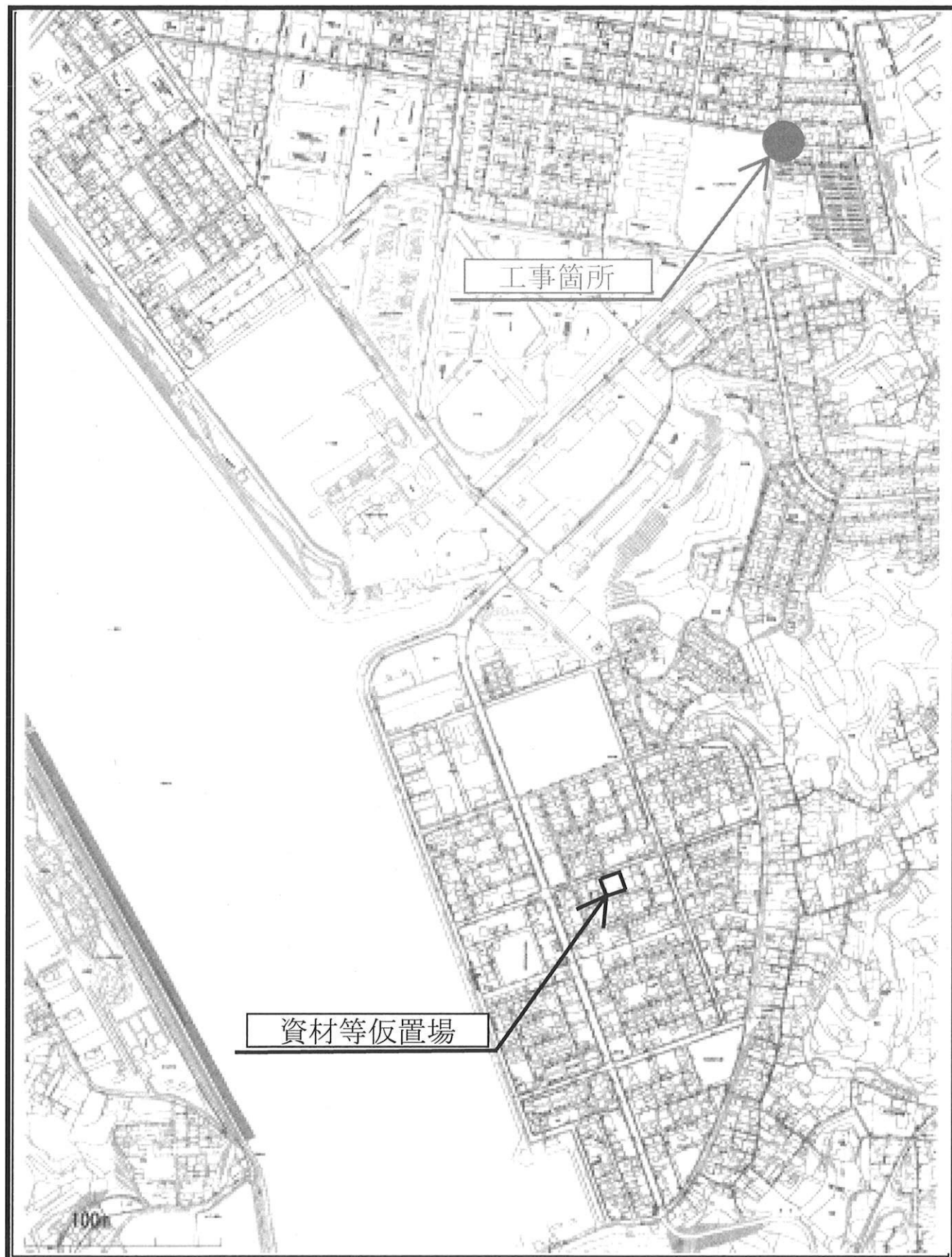
種 別	処分場名	処 分 場 所	数 量
アスファルト殻	〇〇〇〇〇	笠岡市〇〇〇 1 2 3－4	4 5 t
コンクリート殻	〇〇〇〇〇	笠岡市〇〇〇 5 6 7－8	1 0 m3
発生土（2種）	〇〇〇〇〇	笠岡市〇〇〇 9 0 1－2	2 3 0 m3

1 3 その他

地元関係者に工事内容を説明し、理解と協力を依頼する。また、「水道工事のお知らせ」のビラを作成し、工事区間内及び影響範囲内の世帯に配布する。また、「断水工事のお知らせ」については該当する世帯に配布する。

作成例

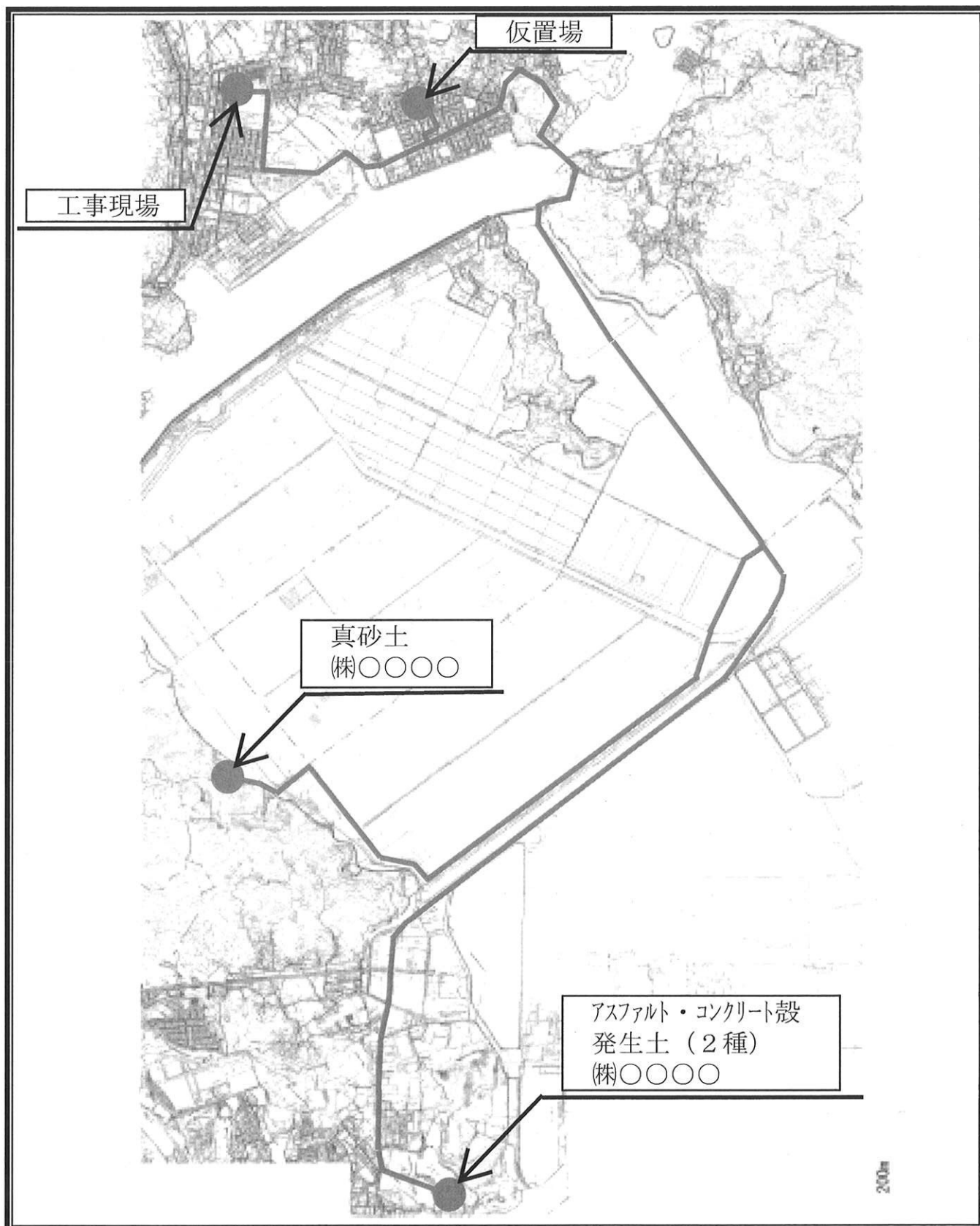
資材等仮置場位置図



建設副産物運搬経路図

作成例

真砂土運搬経路図

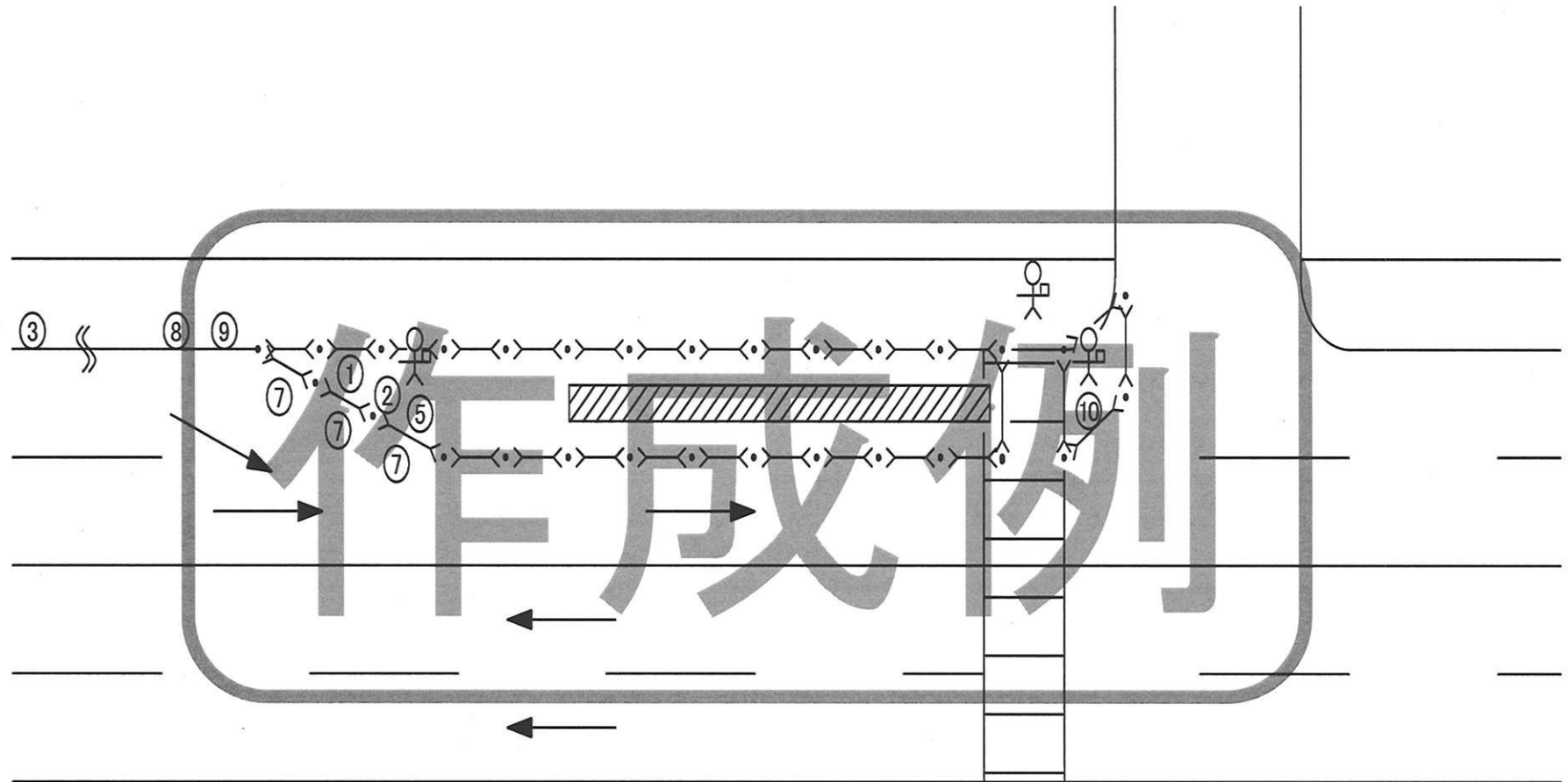


安全施設配置図

図中の記号・略図

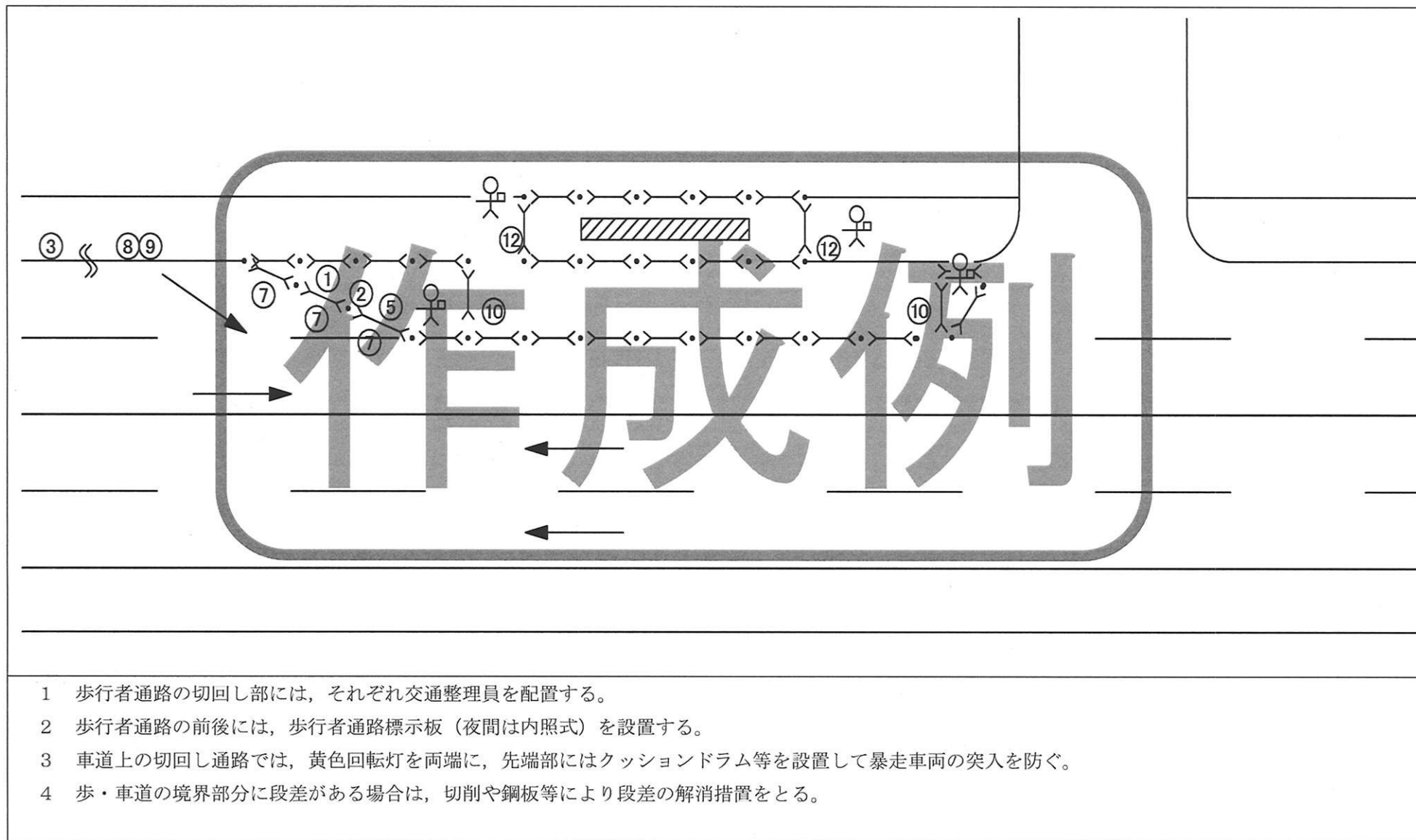
①	工事中標示板	②	工事件名標示板
③	工事予告標示板50, 100, 200	④	段差注意標示板
⑤	指定方向外進行禁止標識	⑥	中央線標識
⑦	矢印	⑧	速度落とせ標示板
⑨	車線減少標示板	⑩	黄色回転灯
⑪	う回路標示板	⑫	歩行者道路標示板
⑬	お願い看板	⑭	通行止め標示板
⑮	停止位置標示板	⑯	交互通行標示板
●	セーフティコーン	➤➤	A型バリケード
人	交通整理員	→	車両進行方向
	施工箇所		

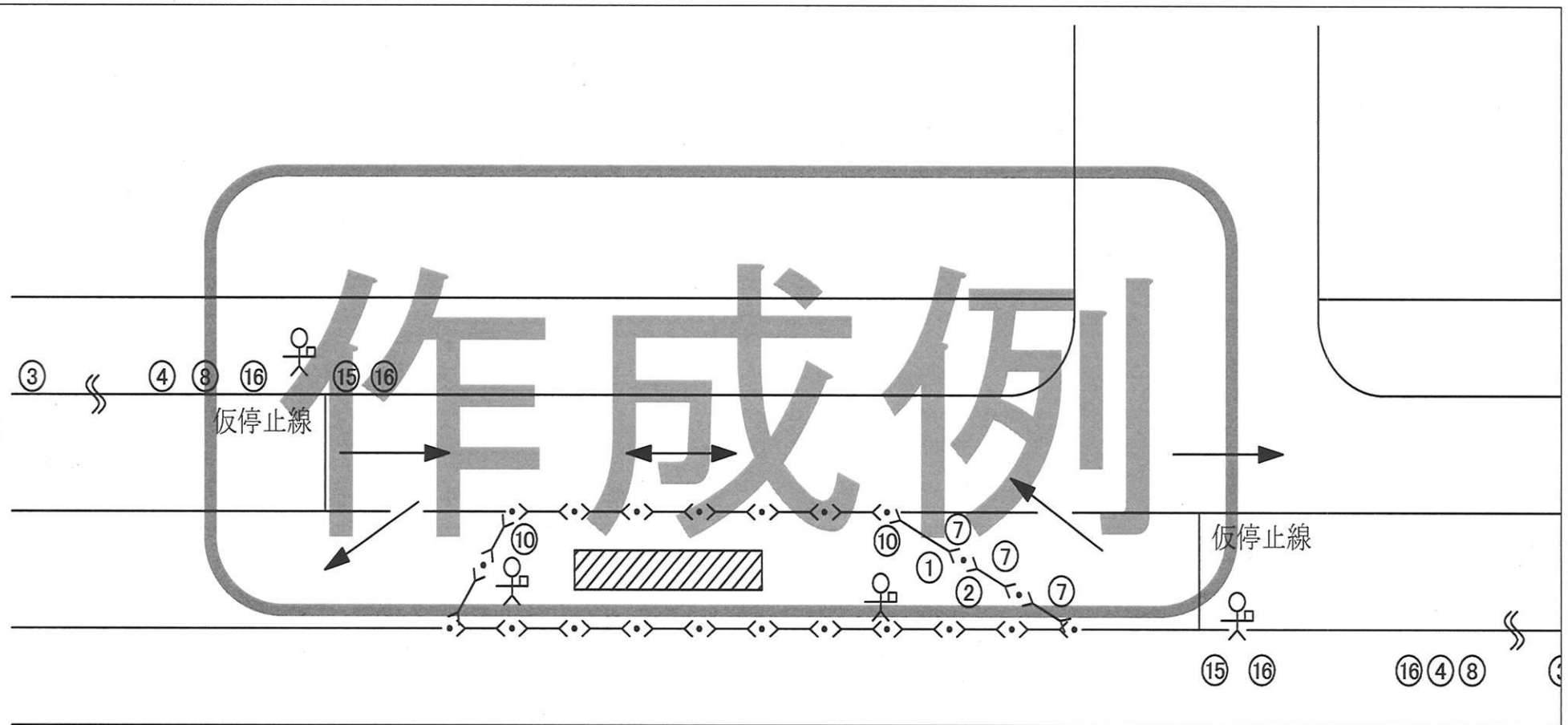
Aルート車道部施工時



- 1 横断歩道を分割した場合は、歩行者が通行できる幅員（保安柵内側の幅員）を確保する。
- 2 交差支道への通行車両の出入りをスムーズにするため、支道部にかかる作業帯部は、隅切りを取る。

Aルート歩道部施工時





- 1 仮の停止線を溶着式路面標示又は貼付式路面標示を用いて標示するとともに、同所に「停止位置標示板」、「交互通行標示板」を設置する。
- 2 停止位置に交通整理員を配置し、交通の流れを見ながら誘導にあたらせる。
- 3 交互通行場所の手前に、工事予告標示板とともに交互通行予告標示板を設置する。

交差支道部施工時

